

## 古代の香り

古代エジプトやオリエント文明で宗教的儀礼として使われた香り

「香水を表すフランス語、Parfum (パルファン) とはラテン語のPer Fumus (ペル・フムス) = 煙を通して、に由来します。香料を焚き、煙を通して神に祈りを届けたり、場を浄化したりするなど、古代から香りは宗教的儀式に深く関連していたのです。古代エジプトでは遺体をミイラ化するときに腐敗防止剤として使った香料をミルラ(没薬)と呼んだという説があります。ミルラはベツレヘムでイエス・キリストが誕生したときに、東方の三博士が捧げた贈り物のひとつとして有名です。その際、一緒に贈られた乳香(フランキンセンス)も黄金に匹敵するほどの価値をもつ香料でした。燻したようなスモーキーな香りやフランキンセンス、ミルラが使われている神聖な香りは、古代の記憶を呼び覚まします」

### profile

#### 中野香織さん

明治大学特任教授。過去2000年分のファッション史を社会との関係の中に分析するファッション研究のプロフェッショナル。無類の香水好きでもあり、香水文化にも明るい。

フレグランスも時代とともに移り変わる

## 香りのヒストリア

photography: Masashi Ikuta (makiura office) styling: Miwako Tanaka  
edit: Teruno Taira

香水はどうやって生まれ、どのように発展してきたのか。歴史の中で時代ごとに愛されてきた香りとは——？服飾史家の中野香織さんの解説とともに、香りを通して古代から現代まで時代の背景をひもとく。嗅覚に刻まれた歴史は、新たな香りとの出会いを連れてくる



(左) 透明度が高く、硬度のある稀少で高価なフランキンセンスを高濃度で配合。スモーキーな渋みの中にほんのり甘い酸味をきかせ、「神秘的な清涼感」を表現した。冷たさとぬくもりが共存する未体験の香り。セルジュ・ルタンズ ローフォアド オードパルファム (50ml) ¥8,000 / ザ・ギンザ

(中左) 教会に足を踏み入れたときに鼻をくすぐる神聖かつ清浄化された空気のようなフランキンセンスに、ミルラ、ラブダナムを合わせた伝統的な調香。クリーンで神秘的な香り。癒やされて。ヒーリー オードパルファン カルディナル(100ml) ¥18,000 / アイビシトレディング

(中右) アマゾンの奥深く、先祖の息吹が宿る巨大な樹木と大地の根が広がる森がイメージ。ベチバーやバジル、クローブによるスモーキーでアーシーな香りがプリミティブな本能を呼び覚ます。パルファン・オノレ・デ・プレ シャーマン パーティー オードトワレ (50ml) ¥8,500 / フォルテ

(右) インセンスがもたらす冷たくドライな香りから始まり、雲のようにソフトなユリとホワイトムスクの甘さがスモーキーな中に溶け込んでいく。「地獄通り」という名にふさわしい個性的な調香が光る。ラルチザン パフューム パッサージュ ダンフェ オードトワレ (100ml) ¥16,400 / ブルーベル・ジャパン



## 中世の香り

汚物の臭気で人が死ぬ時代、  
消毒・殺菌目的で発達した香り

「現代の生活からは想像できませんが、下水処理などのシステムがなかった中世では排泄物からの強烈なアンモニア臭気により人が死んでしまうこともあったといわれるほど、それは強烈なものでした。そうした時代があったのが当時の教会や修道院です。イタリアやフランスでは多くの修道院がラベンダーやユーカリ、サイプレスなど殺菌や消毒、鎮静効果のあるハーブを用いたハーブウォーターのようなもので病人の体を清潔に保ち、臭気から人々を守っていました。当時の修道院発の香りのレシピを今に伝えるサンタ・マリア・ノヴェッラはその代表例ですね。臭気が死をもたらし、香りが病や死から守る働きをもっていたのが中世という時代でした」



(左)バチョリとベチパーの土っぽさをたたえたアーシーな東洋の香りにラベンダー、ローズマリー、ニガヨモギなどの西洋のハーブを加えて。素肌を水で清めるようなやさしく穏やかな香り。クリード オードパルフーム アクア アバディーン ラベンダー(100ml) ¥38,000 / ブルーベル・ジャパン

(中左)トルコのブルーティールをイメージしたすっきりとクリーンなノート。天然のベルガモットをメインにベースのサイプレスがこのうえなく清らかに匂いたつ。よどんだ空気を一掃し、浄化されるようなすっきり感が新しい。ダウンパフューム ベジマット オードパルフーム(30ml) ¥10,500 / デュード

(中右)約500年前、カテリーナ・デ・メディチがフィレンツェの修道院内の薬局に発注したのが、このオーデコロン。今も天然栽培の草花や天然油脂を使うこだわりのレシピで作られた、爽快なシトラスノート。オーデコロン サンタ・マリア・ノヴェッラ(100ml) ¥16,000 / サンタ・マリア・ノヴェッラ銀座

(右)修道院として400年の歴史をもち、現在は5ツ星ホテルであるクヴォン・デ・ミニム。14世紀に王女を美しく若返らせたという伝説の水をもとに作ったのはシトラスフルーツとローズマリーの香りのレシピ。そこにレモンやネロリ、ローズなどを加えた、ボタニカルコロン。オーデミニム(100ml) ¥3,500 / クヴォン・デ・ミニムジャパン

## 近世の香り

マリー・アントワネットら貴族を  
中心に香水を楽しむ文化が開花

「近世になると皮革製品の匂い消しとして香水が使われることに。現在、香水の産地として有名なフランスのグラスは皮革産業が有名な土地でもありました。香水のエッセンスを蒸留する技術が確立され、貴族を中心に香水をたしなむ文化が始まります。コルセットがきつくて時に気を失ってしまうことも多かった貴族の娘たちのために、当時の侍女たちはヴィネグレットという小瓶に香りを入れて持ち歩き、気つけ薬として使っていたというお話も。女性は殿方に助け起こしてもらって見初められたりする時代。身につける香りを自分の存在を覚えてもらうための一助ともしていました。この時代の香水好きで有名なマリー・アントワネットはお抱え調香師ジャン・ルイ・ファージョンにワインエキスとさまざまな花を蒸留したエキスを用いて香水を作らせていました。彼女が好んだバラ、スマイレ、イリスは近世を代表する香りのイメージですね」



(下左)NYはグリニッチビレッジにある  
シックなバフェマリー。  
ローネーションになりたかったバラという  
神秘的なイメージをもとにパウダリーな  
の香りにエキゾチックなスパイスを  
かかせたフローラルノート。アエデス デ  
ヴェヌスタス ウィエ ベンガル オード  
パルフム(100ml) ¥25,000/セモア

(下中)マリー・アントワネットにとって  
フェルゼン伯爵との「消え去りし恋」の  
象徴となるのがスマイレの香り。  
そんなエピソードにぴったりの香水名と  
印象的なフローラルレザーノート。  
ザ ディファレント カンパニー アイ  
ミス ヴァイオレット オードパルフム  
(50ml) ¥24,000/フォルテ

(下右)クラシカルなパウダリーノートの  
代表、イリス。それを引き立てる  
シトラスやハーブ、花の香りにモスや  
パチョリのアーシーなノートとイリスが  
出会う。地中海を巡る旅に出るような趣。  
ミラー ハリス テール ディリス  
オーデパルフム(50ml) ¥12,500/  
インターモード川辺 フレグランス本部

(上)「野蛮なバラ」と名付けられた、  
神秘的なブラックローズを描いた、  
洗練のフローラルシブリーノート。  
マリー・アントワネット時代の  
野趣あふれるバラに思いを馳せて。  
ラル エ ラ マティエール ローズ  
バルバル オーデパルフム(75ml)  
¥32,000(店舗限定発売)/ゲラン



## 現代の香り

香水技術の発展とともに  
時代を映すトレンドの香りが出現

「19世紀になると香水にも男らしさ、女らしさの明快な線引きがされ始めます。イギリスを中心に植物のシダをウォーディアン・ケースに入れて愛でることが一大ブームに。このとき、『匂いのないシダに神様が匂いを与えたら?』と想像して作られたのがフジェル・ロワイヤル、現在もメンズ香水の代表となる香調、フゼアの元祖です。

20世紀になると女性用の香水も花盛りに。1921年には合成香料アルデヒドを用い、「女性の香り」をイメージしたシャネルの5番ことN°5が登場し、一世を風靡しました。N°5は50年代にもマリリン・モンローの発言により再びブームに。以降、初のオリエンタルノート、ゲランのシャリマーやシブレーノート、ミス ディオールなど革新的な香りが続々生まれ、オビウム、ロードウ イッセイなどが各年代の顔となりました。永遠に残る香りを作ろうと思っても決して作ることはできません。むしろ時代に密着した香りだけが後世にその名を刻んでいくのだと思います」



(左) エコロジーという概念が生まれた90年代に「水」という前例のないテーマで創作された。ハスやローズ、リリーなど花の香りが水にくぐらせたかのような透明感をまとう。自然体の心地よさを体現し、時代に残る名香に。ロードウ イッセイ オードパルファム(75ml) ¥13,700 / ブルーベル・ジャパン

(中左) 70年代、ルールやモラルに縛られたくない時代の気分をくみ取り、サンローランが発表したのは、阿片という名のオリエンタルノート。バニラ、パチョリ、アンバー、ミルラのベースにカーネーションをアクセントにきかせてセダクティブに。オビウム オードトワレ(50ml) ¥10,000 / イヴ・サンローラン・ボーテ

(中) 40年代、エレガンス回帰の流れとリンクした、シブレーノートの代表、ミス ディオール。ジャスミンとパチョリが奏でる古きよき時代のエレガンス。その独創性は時空を超えて、今も永遠に愛される香り。ミス ディオール オリジナル エクストレ ドゥ パルファン(15ml) ¥27,000 / パルファン・クリスチャン・ディオール

(中右) 1925年、ジャック・ゲランが手がけたシャリマーはローズ、ジャスミンのフローラルのあとにバニラ、トンカビーン、アイリスがそっと広がる世界初のオリエンタルノート。同年、パリのアルデコ博覧会で最優秀賞に選ばれたボトルのデザインも秀逸。シャリマー 香水(30ml) ¥40,000 / ゲラン

(右) 単一の花の香りが主だった時代に豊かなフローラルブーケの香りを構築。フランス産のジャスミンやローズ・ドウ・メなど80種類以上の天然香料とそれをまとめるため合成香料、アルデヒドを使った調香で一躍、時の香りとなり、今も高い人気を誇る香水界のレジェンド。シャネル N°5 香水(30ml) ¥38,000 / シャネル